

第七十五回県小代議員会開催

○平成二十七年五月十三日 (水)
○燕市吉田産業会館

洋食器と機械部品製造の盛んな燕市と越後一の宮の弥彦神社を祀る弥彦村において、第七十五回新潟県小学校長会代議員会燕・弥彦大会を開催した。開閉会式、全体会、及び各部会が燕市吉田産業会館を会場に行われた。

一 開会式

新潟県教育委員会教育次長中山道夫様をはじめ十三名の来賓、県内二十一日市校長会を代表する百四十三名の代議員、七十七名のオブザーバー、その他本部役員等総勢二百八十二名の参加で開会式が行われた。

開会にあたり、加藤誠雄会長は「一人一人の校長の熱い思いを結集し、新潟県小学校長会が本年度も組織一丸となって本県教育の充実・発展に向けて取り組み、尊敬を勝ち得る校長会を目指すことを本大会において改めて誓い合いたい。そのことが関プロ新潟大会を成功に導く大きなエネルギーになる」と確信している。」と挨拶をした。

来賓祝辞では新潟県教育委員会教育長高井盛雄様に代わって新潟県教育委員会教育次長中山道夫様が「学校の適正規模・適正配置に関すること、義務

教育諸学校の制度化、道徳の教科化など、国や文部科学省の動向に注視し、スピード感をもって対応していく。」と話された。また、県の教育課題として、次の六点について説明をされた。

○学ぶ意欲を高め、確かな学力を実現する教育の推進

○いじめ防止対策の推進

○自殺予防教育等の推進

○郷土愛を軸としたキャリア教育の推進

○児童生徒の安全確保、防災教育の推進

○教職員の綱紀保持及び服務規律の確保

次に新潟市教育委員会教育長前田秀子様が「新潟市では学・社・民の融合による教育を推進し、農業体験などの地域の特徴を生かした教育環境が整い、地域に誇りを持ち自分の力に自信を持たせることで子どもたちが心豊かたたくましく成長していくと考える。そのために、新潟市教育ビジョン第三期実施計画をスタートさせ取り組んでいく。」と述べられた。

最後に、地元を代表して燕市長鈴木



力様が「燕市は平成二十年に教育立市宣言をした。豊かな人間性と創造力を持ち、郷土に誇りと愛着を持った人材を育成するという目標の下、学校現場と行政が一体となって取り組んでいる。」と祝辞を述べられた。

二 全体会

はじめに、議長団として燕市立吉田南小の岡崎登校長と燕市立小中川小の罇博文校長を選出し議事に入り、各号議案が提案通り承認された。

平成二十七年の役員には、会長に新潟市立新潟小の近藤朗校長、副会長に長岡市立阪之上小の荒木正校長、上越市立東本町小の磯貝芳彦校長、理事

十四名、監査三名が選出された。退任役員を代表して加藤会長から「今年度は、新たなステージで飛躍する年である。当会がますます充実・発展することを祈念する。」と挨拶があった。

新役員を代表して、近藤朗会長から「役員一同、新潟県・新潟市の子どもたち、保護者・地域のために、小学校教育が充実するよう本会の役割を果たしていきたい。」と力強い就任挨拶があり、同時に幹事等の委嘱がなされた。平成二十七年活動方針案・事業計画案では、近藤会長から「私たち校長は、何のために校長として勤めているのか。何のために校長会として取り組んでいるのか。もう一度問い直してみよう。」

会員は鋭い先見性と高い教育理念を結集して尊敬を勝ち得る校長会を目指そう。そして、関プロ新潟大会や来年度開催予定の日本教育会新潟大会に向けて、さらには政令市への権限委譲への対応などに真摯に取り組んでいかなければならない。」と方向性が示された。

三 閉会式

開催地を代表して、燕市・西蒲原郡校長会の村山幸一会長が開催のお礼を述べた。次期開催地からは、柏崎市校長会の柳恒雄校長が開催に向けての決意を述べた。最後に、荒木正副会長の閉会宣言により第七十五回県小代議員会の全体会を閉じた。

制度部

して両委員会が連携して活動するとともに、郡市制度部の組織を生かした活動を推進する。

三 調査研究内容の分担

(一) 第一調査研究委員会「市町村での教育機関予算等に関する調査研究」
委員長 南川小 仁田 秀三

〈提案要旨〉 一 活動の重点

「各市町村における教育関連予算の拡充」を引き続き当面する課題として取り上げ、各郡市小学校長会や関連機関等の協力を得ながら組織的な調査研究を行い、各学校や各郡市校長会の課題解決の参考となる資料を提供することにより、学校経営や各郡市小学校長の運営に寄与する。

二 活動の概要

(一) 調査研究内容

- 1 市町村における教育関連予算等に関する調査研究
- 2 特別支援教育の充実に関する調査研究

(二) 調査研究活動

- 1 県内全小学校及び各市町村教育委員会を調査対象とし、各学校や郡市校長会の課題解決の参考となる内容に焦点を当てて調査研究活動を行う。
- 2 調査研究活動報告の作成、並びに各郡市校長会が、予算要望等を行う上で参考となる資料編の作成に重点を置いて活動を推進する。
- 3 第一・第二調査研究委員会を設置

五 調査研究委員会の活動計画

- (一) 調査内容等の検討：第一～三回
- (二) 分析・考察・検討：第四～七回
- (三) 反省・次年度計画検討：第八回

部会記録

福利部

員連盟などと連携した研修の充実による会員の意識の高揚

- 2 県中学校長会と一体となって推進する活動
- 県教育委員会への給与・処遇に係る要望事項の提出
- 3 全国連合小学校長会と連携して推進する要望活動

〈提案要旨〉

一 活動の重点

年々厳しさを増す給与・処遇や退職後の再就職・再任用及び福利・厚生を巡る情勢に対処するため、県中学校長会や全国連合小学校長会、退職校長会などと連携し、情報の収集や調査研究を行うとともに、関係機関・団体に要望するなど、その改善・充実に資する諸活動を推進し、教職員の福利の向上に寄与する。

二 活動の概要

- (一) 教職員の給与・処遇の改善を図るための調査研究活動や要望活動等の推進
- 1 県小学校長会として行う調査研究活動等

(二) 調査研究活動

- 校長の給与の実態についての調査研究活動の実施及び給与水準の維持向上を図るための要望活動の実施
- 校長退職後の再就職状況等の調査及び再任用制度に係る実態把握と雇用促進のための要望活動の実施
- 年金制度や再任用・再雇用など、退職後の生活についての会員の意識調査の実施及び退職校長会や退職公務

三 調査研究委員会の活動内容・分担

- (一) 給与委員会
- (二) 校長の給与・処遇実態調査 等
- (三) 福利第一委員会
- 校長退職後の再就職状況調査 等
- 福利第二委員会
- 福利関係五団体への要望調査 等

研修部

【期日・会場】

六月十一日(木)～十二日(金)

朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター 他

(二) 全連小・山口大会への参加

十月二十二日(木)～二十三日(金)

山口スポーツ文化センター 他
(山口市)

(三) 委員会活動

三つの委員会による調査研究活動の実施と関係諸会合への参加、研究活動を行う。

1 教育課程委員会

教育課程に関する調査研究を行う。教育内容に関する改善事項や時数確保に関する調査、豊かな心や健やかな体の育成に関する調査、防災教育と交通安全教育の指導に関する調査を行い、まとめる。

2 生徒指導委員会

「社会性の育成」を目指した学校改善の一助となる取組を行う。また、昨年度に実施した通信型ゲーム機の調査を受け、小学校における指導状況とその効果や課題に関する調査研究を行う。

3 同和教育委員会

新潟県同和教育研究協議会の各種委員の選出及び諸会議への出席、各種研究集会への参加態勢の確立などを通して、同和教育推進のための活動を行う。また、同和教育にかかわる各種大会に参加して研修を深める。

広報部

- 4 教育随想のページを削除する。
- 5 編集会議を九回から七回に削減する。

(二) 「校長会報」発行計画

1 A4判で年四回発行する。

2 速報性を重視し、読みやすく親しみやすい紙面づくりに努める。

3 今年度から、「校長会報」をそのままPDFでホームページに載せる。
4 「初等教育」その他、会員に配付される要項や報告書との重複を避ける。

5 六ページを四ページに変更する。

(三) 「ホームページ」運用計画

1 会員相互の情報交換として発信する。

2 広く県民に信頼されるホームページづくりに努める。

3 掲載する内容について改善・吟味し、計画的に更新する。

4 今年度から、「校長会報」をそのまま掲載する。しかし、個人情報保護の観点から、個人名は削除する。

三 情報交換

各郡市の広報活動について、紹介し合った。各郡市広報紙の掲載内容にかかわることや年間発行号数、装丁にかかわることなど、具体的に情報交換をした。それぞれの個性ある取組に学び合うことができた。

部会記録

〈提案要旨〉

一 活動の重点

会員の連携と学校経営の改善・充実に資するよう、県小学校長会及び各郡市小学校長会の活動や当面する諸問題に関する情報を提供するとともに、活動の記録として保管し、活用を図る。
年々学校数が減っており、その分、当会の予算が減っていくことから、活動を縮小する方向で提案する。一年かけて、次年度の方向を検討する。

二 活動の概要及び協議

(一) 「初等教育」発行計画

1 A5判で年二回発行する。

2 「校長会報」との連携を図りながら、記録性・資料性を重視して、紙面の充実に努める。

3 表紙は、カラーから二色刷に変更する。